

Main table with columns: 月 (Month), 回数 散布量 (Frequency/Amount), 散布時期 (Timing), 対象病害虫 (Target Pests/Diseases), 基準薬剤 (Standard Pesticides), 倍数 (Multiplier), 収穫前 日数 (Days before harvest), 1,000ℓ 当たり薬量 (Amount per 1000L), 病害虫防除の注意事項 (Precautions for pest/disease control).

■ナシマルカイガラムシ対策
発生が多い園地では、発芽前にマシン油50倍を散布する。その場合、リンゴハダニ越冬卵を対象とした展葉1週間後頃のマシン油200倍の散布は必要ない。

■クワコナカイガラムシ対策
① 粗皮削り、バンド巻きなど耕種防除に努める。
② 発生の多い園地では、展葉1週間後頃にアブロードも使用する。多い園地では7月下旬と8月上旬に防除剤による胴木洗いをを行う。

■黒星病対策
1. 展葉1週間後頃から落花20日後頃までは薬剤散布間隔を守り、降雨前散布を徹底する。
2. 開花直前と落花直後は最も重要な時期なのでできるだけ間隔をあけない。開花期間が長引いた時は、満開を過ぎたら花が残っていても散布する。

訪花昆虫保護のため、開花直前及び落花直後はIGR剤及びBT剤以外の殺虫剤を使用しない。

★コンフューザーRの設置
コンフューザーRを10aあたり100本設置する。

ハマキムシ類やシンクイムシ類などの対策としてコンフューザーRを設置し、地域ぐるみで発生密度の低下を図る。

■アブラムシ類対策
1. リンゴクビレアブラムシの発生が多い園地では、展葉1週間後頃にバリアードを使用する。
2. 夏季にアブラムシ類の発生が多い園地では、ウララ、キラップ、トランスフォーム、コルトのいずれかを使用する。

■シンクイムシ類対策
1. モモシクイガ対策として6月中旬から毎回防除剤を使用する。
2. ナシヒメシクイが多い園地では、落花10日後頃、落花20日後頃及び9月以降も防除剤を使用する。

□ラピライトを使用する場合
ラピライト水和剤及びトップジンM水和剤を使用する場合はベンレート水和剤を使用しない。ベンレートを使用する場合はラピライト及びトップジンMを使用しない。

■有袋果のすす病対策
袋掛けは殺菌剤散布後5日以内を目安に袋掛けを行い、5日以上あく場合はチオノック等で実洗いをを行う。

■褐斑病対策
感染期間が長く、降雨によって感染が拡大するため、長雨が予想される場合は散布予定日を前倒すなど降雨前散布を徹底する。
発生が前年に多かった園地では、7月半ば又は7月末のいずれかにオンリーワンを使用する。

■ハダニ類対策

Table with columns: 薬剤名 (Pesticide Name), 倍数 (Multiplier), 収穫前日数 (Days before harvest), ナミハダニ (Nami-hadani), リンゴハダニ (Ringo-hadani), 卵 (Eggs), 成虫 (Adults). Rows include products like バロックFL, ピラニカ水和剤, etc.

・コロマイトは6月末、オマイトは7月末まで使用を避ける。
・スターマイト、ダニコングは合わせて年1回の使用とする。
・ダニオーテは銅剤と混用、銅剤使用後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は、10日以上間隔を開ける。
・アカリタッチは展着剤不要。

■炭そ・輪紋病対策
降雨により感染が拡大するため、長雨や豪雨が予想される場合は、散布予定日を前倒すなど、降雨前散布を徹底する。

■すす点・すす斑病対策
発生が心配される園地では、ストライドまたはオーソサイドを9月15日頃に散布する。ただし、8月末の散布から15日以上あかないように注意する。

□カルシウム剤

ビターピットの発生防止と、品質向上のため、カルシウム剤を積極的に散布する。

Table with columns: 剤名 (Agent Name), 倍数 (Multiplier), 1000ℓ当たり薬量 (Amount per 1000L). Rows include カルマツチ, スイカル, セルバイン, ストビットII.